

社会情報学会協賛「リスク社会における公共性の構造転換と社会関係資本—計算社会科学からの挑戦」公開シンポジウムおよびワークショップ

学習院大学 遠藤 薫
Gakushuin University Kaoru, ENDO

1 「リスク社会における公共性の構造転換と社会関係資本—計算社会科学からの挑戦」公開シンポジウムおよびワークショップ

2016年2月27日、東京大学工学部3号館で、「リスク社会における公共性の構造転換と社会関係資本—計算社会科学からの挑戦」公開シンポジウムが開催された。また翌日には、さまざまな分野の研究者によるワークショップが行われた。主催は、課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 領域開拓プログラム「リスク社会におけるメディアの発達と公共性の構造転換～ネットワーク・モデルの比較行動学に基づく理論・実証・シミュレーション分析」プロジェクトである。

社会情報学会のほか、東京大学、学習院大学、神戸大学、横幹連合、日本社会学会、数理社会学会、人工知能学会などの協賛、後援もいただいた。

本シンポジウムは、計算社会科学の視座から重層的メディア環境におかれたリスク社会における公共性と社会関係資本の健全な形成の条件を明らかにすることをめざしたもので、招待講演にはヨーロッパで計算社会科学をリードするProf. Dirk Helbingをお招きした。

まだ新しい分野なので、参加者が少ないのではないかと心配したが100人近い参加者で、会場は熱気にあふれていた。

以下、招待講演、基調講演、パネル・ディスカッションについて、簡単にご報告させていただくこととする。

2/27 開催 公開シンポジウム
リスク社会における公共性の構造転換と社会関係資本—計算社会科学からの挑戦—
(先導的人文学・社会科学研究推進事業)

リスク社会とも呼ばれる時代、急速に発展するメディアは相互作用しながらソーシャルキャピタル（人々の信頼関係や結びつき）に大きな影響を及ぼしている。本シンポジウムでは計算社会科学の視座から、重層的メディア環境におかれたリスク社会における公共性と社会関係資本の健全な形成の条件を明らかにする。

招待講演 Prof. Dirk Helbing(ETHZ)
Helbing 博士(チューリッヒ工科大学)は計算社会科学の第一人者、多国籍や交流のセゾ、社会シミュレーションやビッグデータ分析など多岐にわたる研究で知られる。フロンティア・FutureCTも手がける。
www.comsoc.ethz.ch/people/dirkhelbing.html

2016年2月27日(土)13:00~17:00 東京大学本郷キャンパス工学部3号館31号室

プログラム
13:00~13:10 開会挨拶 上原 貴志(神戸大学)
13:10~14:10 招待講演 Prof. Dirk Helbing(ETHZ)
14:10~14:40 基調講演 遠藤 薫(学習院大学)
14:50~16:50 パネル討論 司会:遠藤 薫(学習院大学)
討論者:上原 貴志(神戸大学) 藤岡 不二夫(東京大学) 佐藤 義典(東北大学) 吉田 裕(神戸大学)
東京 啓(電気通信大学) 熊土 昌紀(宇都宮大学) 長原 俊也(神戸大学) 藤 剛史(東北大学)
16:50~17:00 閉会挨拶 佐藤 義典(東北大学) 総合司会: 長岡 不二夫(東京大学)

参加費 無料 **問い合わせ** 東京大学工学部工学系研究システム創造学専攻 長岡不二夫 toriyasu@sys.t.u-tokyo.ac.jp

主催 日本学術振興会 先導的人文学・社会科学研究推進事業
協賛 「リスク社会におけるメディアの発達と公共性」研究グループ
後援 東京大学工学系研究科、学習院大学工学部、神戸大学経済経営研究所、日本社会学会、人工知能学会
協賛 情報科学研究センター、社会情報学会、数理社会学会

2 公開シンポジウム

公開シンポジウムでは、招待講演、基調講演、パネルディスカッションが行われた。

講演者とそのタイトルは以下の通りである。

- 招待講演 ‘How to Build a Smart Digital Society Together.’: Prof. D. Helbing (チューリッヒ工科大学)
- 基調講演「間メディア社会における公共性の構造転換」:*遠藤薫(学習院大学法学部教授)

■ パネル・ディスカッション

- 佐藤 嘉倫「計算社会科学による社会秩序の解明」(社会学分野, 東北大学教授)
- 数土 直紀「なぜ, 秩序形成なのか?—計算社会科学と計算社会学の間」(社会学分野, 学習院大学教授)
- 鳥海 不二夫「ソーシャルメディアにおける信頼の構築」(情報学分野, 東京大学准教授)
- 上東 貴志「利益相反の分類と社会組織の安定性」(経済学分野, 神戸大学教授)

3 ワークショップ

翌日は, (株)ホットリンクの会議室を借りて, 公開ワークショップが開催された。社会情報学会研究活動委員会(数理部門)との共催である。

ワークショップは, 岡田勇先生(社会情報学会研究活動委員会委員, 創価大学)の総合司会のもと, Helbing教授の講演に始まり, 岩井淳先生(社会情報学会研究活動委員会委員, 群馬大学)をはじめとする, さまざまな分野にまたがる研究者の報告がなされた。すべて英語で行われたにもかかわらず, 参加者も多く, 活発な議論がなされた。

概要は以下の通りである:

■ Cordinator: * Isamu Okada @ Soka University

■ 講演: Dirk Helbing @ETH, Swiss

”From Computational Social Science to Global Systems Science”

■ 報告

- Akira Ishii @ Tottori U, Soc. Phys
“Analysis of social attentions on social networks using mathematical model of sociophysics approach”
- Hiroki Takikawa @ Tohoku U, Soc.
“A Review on the Current Status of Computational Social Science in Sociology”

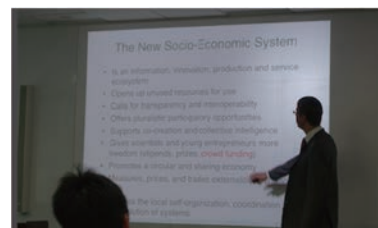
- Takashi Kamihigashi @ Kobe U, Macroecon.
“Computational Methods in Dynamic Macroeconomics”
- Takashi Kamihigashi @ Kobe U, Macroecon.
“Computational Methods in Dynamic Macroeconomics”
- Kazutoshi Sasahara @ Nagoya U, Info. Sci.
“Collective Behavior of Social Sensors and Its Application to Social Science”
- *Atsushi Iwai @ Gunma U, Soc. Informatics
“A Design of Agent-based GDSS that Supports Anonymous Communication and the Convergent Process”

■ Discussion

4 今後に向けて

本プロジェクトは, 今後も継続的に進めていく予定である。

3ヶ月後の2016年7月2日には, やはり計算社会科学の世界的権威である, コーネル大学のMichael Macy教授をお招きして, 学習院大学中央教育研究棟で, 公開シンポジウムを開催する予定である。同じく7月3日には, ワークショップも開催予定であり, 一般からの報告も公募の予定である。社会情報学会のみならずには, 是非, ご参加いただければ幸いです。



ワークショップにて (2016.2.28 遠藤撮影)